

理学・作業療法学科学生の入学・卒業時の 自己像の変化と理想とする専門職像について

松田 勇 小林隆司 香田康年 難波悦子 岩田美幸

Understanding of change of the self image at admission / graduation and
ideal professional self image in the students of physical therapy and occupational therapy

Isamu MATSUDA, Ryuji KOBAYASHI,
Yasutoshi KOUUDA, Etsuko NAMBA, Miyuki IWATA

要 旨

本研究の目的は理学・作業療法学科学生の入学時と卒業時の自己像の変化および将来の療法士としての理想と考える自己像について把握することを目的とした。方法は自己像を自我状態で捉えるためエゴグラム質問紙を用いた。その結果は以下の通りである。1. 入学時のエゴグラム得点は高校卒業直後の状態を反映していた。2. 卒業時のエゴグラム得点はNPとAとFCで有意に上昇し、逆にACでは有意に低下した。3. 理想の専門職としての自己像ではNPとAが高得点となり、さらにACの得点が極めて低かった。4. 理想的な専門職としての自己像のエゴグラム・パターンは台形型とAC低位型で大半が占められた。このことは医療・保健・福祉に関わる者の自我状態として示唆的であった。

キーワード：理学・作業療法学生、自己像、エゴグラム

Key words : physical and occupational therapy students, self image, egogram

はじめに

エゴグラム (egogram) とは Eric Berne (1954) により創案された交流分析 (TA; Transactional Analysis) の手法を基礎とし、Dusay J.M. により自我の状態をより定量的・構造的に捉える方法として考案されたものである。その後、Heyer N.R. により質問紙法としてのエゴグラムが開発され今日に至っている¹⁾。

本邦では九州大学心療内科の池見、杉田により1974年に導入された。その後、緒家により質問紙法として多くの考案がなされ、現在、臨床応用などの研究も盛んに行われている^{2~5)}。

フロイトにより創始された精神分析では人の心理を超自我・自我・イドの領域に分け無意識下の心理状態を強調しているが、交流分析では個人の自我の状態を「親 (P; Parent)・大人 (A; Adult)・子供 (C; Child)」の状態として捉え、無意識の心理状態は強

調しない。さらに、親の自我状態は批判的親 (CP; critical Parent) と保護的親 (NP; Nurturing Parent) に、子供の自我状態は自然な子供 (FC; Free Child) と順応した子供 (AC; Adapted Child) に分けられる。エゴグラムはこれらの状態をカテゴリー化し質問項目に答えるように調査される。各カテゴリーの自我の特色は表1のごとく示される⁶⁾。

今回の研究では理学・作業療法学科学生の入学時と卒業時の自己像の変化および将来の療法士としての理想と考える自己像について、エゴグラムを用いて検討することを目的とした。

対 象

対象は本学の某年度に入学した理学療法学科41名と作業療法学科42名である。調査は4年次12月に実施した。なお、本調査においては学生に十分な

表1 5つの自我状態の特色

CP	批判的な親の心	信念に従って行動する厳しい父親のような親の心です。自分の価値観や考え方をゆずろうとせず、他人を批判したり非難したりします。良心や理想と深く関連していますが、CPが強すぎると、尊大で支配的な態度、命令的な口調などがめだつようになります。
NP	保護的な親の心	思いやりをもって世話をするやさしい母親のような親の心です。親切・いたわり・寛容な態度と関連しており、親身になって人のめんどろをみる保護的なやさしさが特徴です。NPが強すぎると、過保護やおせっかいになりやすいので、気をつけてください。
A	大人の心	事実に基づいてものごとを判断しようとする合理的な大人の心です。Aはコンピューターにたとえられ、データを集めて論理的に処理していく働きをします。Aが強すぎると、打算的で冷たく情緒の乏しい人間味に欠けた人になるおそれがあります。
FC	自由な子供の心	自分の欲求のままにふるまい、自然の感情をそのまま表わす何ものにも縛られない自由な子供の心です。明るくて無邪気ですが、わがままな面があり、自分かってで依存的な面をもち、他人への配慮に欠けることがあります。
AC	順応した子供の心	自分の本当の気持ちを抑えて相手の期待にそおうと努める順応した子供の心です。ACは自分を押し社会規範に従って行動する傾向をもちますが、それが強くなりすぎると、イヤなことをイヤといえずにストレスを心の中に溜めこむことになってしまいます。

引用：文献6) 新里里春 他より

説明を行い、研究以外の目的でデータを一切使用しないこととし同意を得た。さらに、個人が同定される名前等の記載は任意とした。その結果、多くの学生は記名を選択した。

方 法

1. 今回の研究で使用したエゴグラム質問紙は岩井ら⁷⁾が考案したもので自我の各側面であるCP、NP、A、FC、ACに対してそれぞれ10項目の質問で合計50項目の質問紙として構成されている。各質問項目の例は以下の通りである。CP:「人の言葉をさえぎって、自分の考えを述べることがありますか」NP:「他人に対して思いやりの気持ちが強い方ですか」A:「自分の損得を考えて行動する方ですか」FC:「自分をわがままだと思いますか」AC:「思っていることを口に出せない性質ですか」また各質問項目はそれぞれ「はい」を2点、「いいえ」を0点、「どちらでもない」を1点とし採点し各カテゴリーは20点満点で算出される。

今回の調査では対象者の自我状態について以下の3つの条件を設定し実施した。

1) 「入学時の自己像」; 本学入学時の自分を想起し

てもらい、その時の自我状態よる自己のイメージで答えてもらう。

2) 「卒業時の自己像」; 現在の自我状態よる自己イメージで答えてもらう。本調査は4年次の12月に実施されたことより、ほぼ卒業時と考えて卒業時の自己像とした。

3) 「理想の専門職像」; 卒業後の近い将来の専門職である理学療法士や作業療法士として各自が描く理想とする専門職イメージとして答えてもらう。

また、全体の自我状態のプロフィールすなわちエゴグラム・パターンの判定には東京大学医学部心療内科編の「新版エゴグラム・パターン」⁸⁾の17パターン分類を参考に筆者らが判定をおこなった。

2. 統計処理はystat2006.xlsを使用した。今回のデータはすべてノンパラメトリックな変数であり正規性の適合は χ^2 test、対応のある2変数はWilcoxon t-test、対応のない2変数はMann-Whitney U-testを用いて有意性の検定をおこなった。

結 果

1. 学生全体のエゴグラム得点について

調査学生全体のエゴグラムの各カテゴリー別、および入学時・卒業時・理想の自己像の3条件での平均値と標準誤差を両学科別に表2に示す。

PT学生ではCPの入学時の自己と卒業時の自己、入学時と理想の自己および卒業時の自己と理想の自己の間でのみ有意差は認められなかった。一方、その他の自己像間のすべてで有意な差が示された。すなわち、NPとAとFCでは入学時の自己より卒業時の自己の得点が有意に高く、さらに卒業時の自己より理想の自己の得点が高かった。逆にACでは入学時の自己より卒業時の自己の得点が有意に低く、さらに卒業時の自己より理想の自己の得点が低かった。

OT学生ではCPの入学時の自己と卒業時の自己およびFCの卒業時の自己と理想の自己でのみ有意差は認められなかった。一方、その他の自己像間のすべてで有意な差が示された。すなわち、CPの2群間とNPとAすべての群間とFCの2群間では入学時の自己より卒業時の自己の得点が有意に高く、

さらに卒業時の自己より理想の自己の得点が高かった。逆にACでは入学時の自己より卒業時の自己の得点が有意に低く、さらに卒業時の自己より理想の自己の得点が低かった。

理学・作業療法学科間の学生の比較ではMann-Whitney U-testにおいてすべての自己像間に有意な差は認められなかった。

2. エゴグラム・パターンについて

学科別の平均得点でのエゴグラム・パターンを図1と2に示す。両学科の学生とも同じようなエゴグラム・パターンを示している。

入学時のエゴグラム・パターンはA低位型として合理的な大人の心が弱く、知性の未熟を示している。さらにPT学生ではAC優位型の特性も示し、これは自分の本当の気持ちを抑えて相手の期待にそおうと努める順応した子供の心が優位であることを示している。

卒業時のエゴグラム・パターンは両学科とも弱いM型のパターンを示し、これはNPとFCの得点の上昇とACの得点の低下で特徴付けられる。これは

表2 OT・PT学生の各エゴグラムカテゴリーの入学時・卒業時および理想の自己の比較

		PT学生				OT学生			
		平均値	標準誤差	卒業時の自己	理想の自己	平均値	標準誤差	卒業時の自己	理想の職業像
				有意水準	有意水準			有意水準	有意水準
C P	入学時の自己	10.2	0.99	ns	ns	9.0	1.06	ns	*
	卒業時の自己	9.9	1.03		ns	8.3	0.91		**
	理想の自己	11.1	0.68			11.6	0.57		
N P	入学時の自己	12.4	0.84	**	**	13.5	0.89	**	**
	卒業時の自己	15.8	0.52		**	15.9	0.80		**
	理想の自己	18.2	0.38			19.1	0.27		
A	入学時の自己	8.2	0.97	**	**	10.2	0.68	*	**
	卒業時の自己	11.0	0.90		**	11.7	0.92		**
	理想の自己	18.3	0.27			18.1	0.42		
F C	入学時の自己	12.0	0.74	**	**	11.9	0.92	**	**
	卒業時の自己	14.3	0.62		*	13.8	0.93		ns
	理想の自己	15.4	0.51			15.1	0.61		
A C	入学時の自己	13.2	0.99	**	**	11.6	0.95	*	**
	卒業時の自己	9.7	1.37		**	10.2	1.04		**
	理想の自己	2.5	0.63			2.7	0.60		

Wilcoxon t-test ns : P>0.05 * : P<0.05 ** : P<0.01

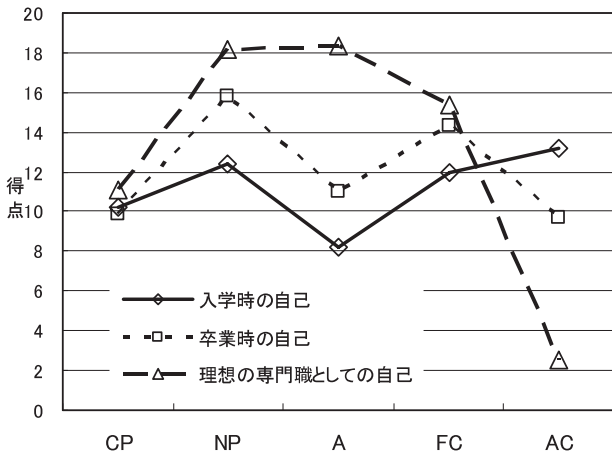


図1 PT 学生の平均エゴグラム・パターン

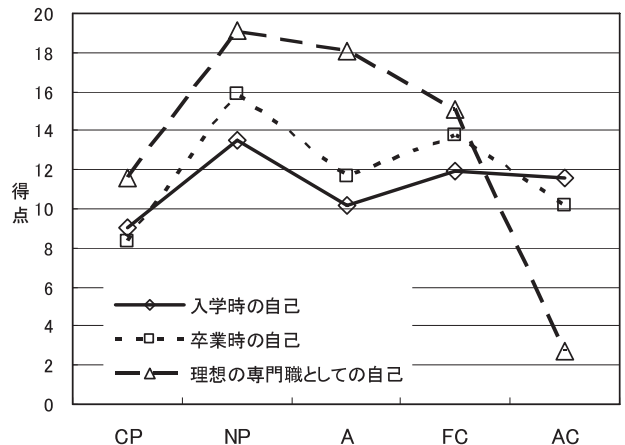


図2 OT 学生の平均エゴグラム・パターン

NP の特性である思いやりをもって世話をすることや親切・いたわり・寛容な態度と関連しており、親身になって人のめんどろをみる保護的なやさしさが特徴となっている。また FC の得点の上昇と AC の得点の低下は自然の感情をうまく表現できるようになってきたこと、相手に合わせすぎないでうまく行動できるようになってきたことを示している。

理想の専門職としての自己のエゴグラム・パターンは台形型であった。これは通称「ボランティアタイプ」

または「総婦長タイプ」と通称されている。卒業時のエゴグラム・パターンと比較して NP と A が高得点となり、さらに AC の得点が極めて低くなっている。

3. 個々の学生のエゴグラム・パターン分類について
個々の学生のエゴグラム・パターンの判定には東京大学医学部心療内科編の「新版エゴグラム・パターン」⁸⁾の17パターン分類を参考に筆者らが判定をおこなった。両学科の学生を個別に分類した結果を表3に示す。各パターンの特徴はCP優位型は

表3 エゴグラム・パターン分類によるPT・OT 学生の分布

エゴグラム パターン	PT学生						OT学生					
	入学時の自己		卒業時の自己		理想の自己		入学時の自己		卒業時の自己		理想の自己	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
CP優位型	2	4.9	1	2.4			2	4.8				
NP優位型	4	9.8	8	19.5	5	12.2	1	2.4	11	26.2	2	4.8
A優位型	1	2.4	1	2.4	2	4.9	2	4.8	2	4.8	1	2.4
FC優位型	1	2.4	4	9.8			2	4.8	5	11.9		
AC優位型	5	12.2	3	7.3			6	14.3	3	7.1		
CP低位型	1	2.4	1	2.4			4	9.5				
NP低位型	1	2.4					2	4.8	1	2.4		
A低位型	5	12.2	1	2.4			2	4.8	3	7.1		
FC低位型							1	2.4				
AC低位型			1	2.4	8	19.5					9	21.4
台形型	2	4.9	3	7.3	25	61.0	2	4.8	1	2.4	28	66.7
U型	3	7.3										
N型	5	12.2	8	19.5			5	11.9	1	2.4		
逆N型							1	2.4				
M型	7	17.1	7	17.1			9	21.4	10	23.8		
W型	1	2.4										
平坦型	3	7.3	3	7.3	1	2.4	3	7.1	5	11.9	2	4.8

Yates Chi = 10.52 p<0.05 (PT と OT の学生を合算)

厳格さや信念の強さなどをあらわす「がんこおやじタイプ」であり、NP 優位型は親切やいたわり・寛容さなどの「世話やきタイプ」である。A 優位型は冷静で客観的判断を優先する「コンピュータ的タイプ」で、FC 優位型は自然な感情や無邪気さなどの「自由奔放タイプ」、AC 優位型は感情を抑え相手の期待に沿おうとする「自己犠牲タイプ」と通称されている。CP 低位型は自分にも他人にも厳しさを求めず責任感や規範が軽視される「ルーズタイプ」、NP 低位型は他者に対する思いやりに欠けることが特徴で「かんしゃくもちタイプ」、A 低位型は理性での問題解決能力に欠ける特徴を持ち「現実無視タイプ」、FC 低位型は自己主張や感情おさえてしまう「忍の一字タイプ」、AC 低位型は周りに迎合しないでわが道を行く「経営者タイプ」と通称されている。台形型は世話やきや奉仕精神の持ち主で「ボランティアタイプ」、U 型は葛藤処理能力に欠ける「葛藤タイプ」または「いじけタイプ」、N 型は頼まれごとが断れない「お人よしタイプ」、逆 N 型は周囲への思いやりや気配りがなく「自己中心タイプ」、M 型は思いやりがあるがわがまま性格で楽しさ重視の「明朗タイプ」、W 型は冷静で理性的である半面、道徳や社会規範に縛られる「苦悩タイプ」、そして最後の平坦型は温厚でバランス感覚のすぐれた「凡人タイプ」と通称されている。

学生の入学時のエゴグラム・パターンのタイプは両学科とも M 型が最も多く、それぞれ 17.1%と 21.4%を占めた。次いで多かったのは AC 優位型であり、それぞれ 12.2%と 14.3%を占めた。

卒業時のエゴグラム・パターンのタイプでは PT 学生では NP 優位型と N 型が 19.5%と最も多く、次いで M 型が 17.1%であった。OT 学生では NP 優位型最も多く 26.2%を占めた。次いで多かったのは M 型で 23.8%を占めた。

理想の専門職としてのエゴグラム・パターンのタイプでは両学科とも台形型が極めて多く、それぞれ 61.0%と 66.7%を占めた。次いで多かったのは AC 低位型であり、それぞれ 19.5%と 21.4%であった。

考 察

学生は将来の理学療法士や作業療法士をめざして入学し、4年間の大学での勉学や臨床実習などを通して自己形成を図り、専門職の卵として卒業してゆく最後の過程にあると考える。その成長過程を自我状態の変化として捉え考察した。

まず、各学科の学生の平均エゴグラム得点では入学時は A の得点が低く、AC の得点が高いことで特徴づけられるといえる。この時期は高校を卒業したばかりの学生が多く、大人としての理性的な自我である A の特性が未熟であり、また AC の得点が高いことは子供として躰けられたり、他者の期待に添うよう受動的な努力をしてきた自我の現れと解釈できよう。そして4年間の大学生活はこのような自我状態に変化をもたらしている。卒業時の平均エゴグラム得点では NP と A と FC の有意な上昇と AC の得点の有意な低下が認められる。このことは将来の医療・保健の専門職と必要な NP の特性である親切・いたわり・寛容な態度と関連しており、親身になって人のめんどろをみる保護的なやさしさが成長したと言える。また A の特性である事実に基づいてものごとを冷静に判断しようとする合理的な大人の心が成長したと言える。AC の得点の有意な低下は多くの学生が親元から離れ、生活の自律性が高まり、より能動的になり、自らの好みや欲求により行動するようになったことを意味するものと考えられた。

理想的な専門職としての自己像では卒業時と比べ、さらに平均エゴグラム得点が NP と FC では緩やかな上昇を示し、A は大きな上昇を示している。また AC の得点の極端な低下として現れている。最も特徴的な点は A の上昇である。近い将来、実現するであろう理学療法士や作業療法士としての専門職に必要な患者や利用者に対する客観的で冷静な判断力そしてデータを集めて論理的に処理していく能力に未熟さを感じている現われと見ることもできよう。このことは言い換えれば、専門職として A の特性の重要性を強く意識しているとも言える。一方、AC の極端に低い得点は周囲を気にせず自由でのびのびと仕事していく態度の現われとして捉えることもできよう。しかし、AC の肯定的特性である協調

性に富む態度や時には妥協の必要な場面でマイナスに働く危険性も意味している。特にチーム医療の担い手として理学療法士や作業療法士の役割を考えた場合、協調性や妥協性も時には重要と言えよう。卒業後の臨床経験を積むことでこの特性の変化を期待したい。

次に個々の学生のエゴグラム・パターンの分類で見た場合、入学時と卒業時のエゴグラム・パターンの比較では相手の状態に配慮し優しく接することができる NP 優位型の学生が PT では 9.8% から 19.5% に、OT では 2.4% から 26.2% に増加していることがわかる。このことは臨床実習の効果が強く反映されたものと考えることができよう。大学のキャンパス内の教育だけでは不可能な臨床実習の重要性が指摘できる。

さらに理想的な専門職としての自己像のエゴグラム・パターンでは台形型と AC 低位型を合わせた割合が PT では 80.5% であり、OT では 88.1% と極めて高い値となっている。台形型は AC 低位型の CP の特性が弱まった型で両者は典型的に共通点が多い。この台形型の自我状態の人は健康的で明るく自己主張ができ、周囲への思いやりも高く、テキパキと仕事こなし、楽しく遊び、生活をエンジョイできるタイプである。さらに AC 低位型は AC のみ低値で他の 4 つのカテゴリーのすべてが高い値を示すタイプである。上記の台形型に加え、規範を重んじ責任感が強く自己の信念で行動するタイプである。これらの自我状態はまさに医療・保健・福祉の世界で働く者の理想形と考えることができる。学生が描く将来の理想の専門職イメージとして今後の自己実現に期待したい。

Abstract

The aim of this study was understanding to change of “ego state” during the school days at the admission to graduation in the physical and occupational therapy students.

We investigated “ego state” by using egogram questionnaire. Results were as the following ;

1. The egogram score at the admission reflected a state just after the graduation from high school. 2. The egogram score at the graduation was significantly elevated in NP and A and FC, and significantly depressed in AC. 3. NP and A were the high score in the self image as the ideal PT/OT, and a score of the AC was extremely lower. 4. The egogram pattern of the self image as ideal PT/OT, most were accounted for with a trapezoid type and an AC low degree type. This was suggestive as “ego state” of the related staff in medical / health care / welfare.

文 献

- 1) 杉田峰康 (2000) 医師・ナースのための臨床交流分析入門 第 2 版. 医歯薬出版 東京 p1-86
- 2) 桂 載作 (2002) 医療における効果的なチームコミュニケーション. 交流分析研究 27 (2) : 25-30
- 3) 中川巳子, 渋谷百合子 (2002) 患者と看護師のやりとりの傾向-効果的な相互行為のあり方. 成人看護 I 33 : 80-82
- 4) 大澤早苗, 米村敬子 (2005) スタッフ同士に軋轢を生じた人間関係. 看護実践の科学 30 (3) : 32-37
- 5) 岡田 俊 (2001) 精神科看護におけるやりとりの分析-自我状態と臨床経験の影響に関する検討-. 交流分析研究 26 (1) : 68-73
- 6) 新里里春 水野正憲 桂 載作 他 (1986) 交流分析とエゴグラム. チーム医療 東京 : p27 p58
- 7) 岩井浩一, 石川 中, 森田百合子 他 (1978) 質問紙法エゴグラムの研究. 心身医 18 (3) 210-217
- 8) 東京大学医学部心療内科 (1995) 新版エゴグラム・パターン. 金子書房 東京 : p49-140
- 9) 東京大学医学部心療内科 TEG 研究会 (2006) 新版 TEG II 解説とエゴグラム・パターン. 金子書房 東京 : p82